

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105396
法人名	有限会社 トータルケア 果の実
事業所名	グループホームころ今出
所在地	松山市西垣生町1607-1
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、日中、どれだけ活動的に過ごせるかということをテーマに日々努力しています。日課のラジオ体操や個別の運動、口腔体操、清掃活動、家事、レクリエーションやおやつ作り、音楽療法など楽しみながらしっかり体を動かして頂いています。また、散歩や買い物、マッサージ、外出行事等で外の空気に触れる機会を増やし、季節感を感じて頂いたり、社会とのつながりを感じて頂いたり、気分転換等ができるように努めています。日中を活動的に過ごして頂くことで、夜もぐっすり眠られ、生活のリズムを整えています。一瞬一瞬一日一日を大切にケアにあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅に囲まれた2階建ての木造の事業所は、玄関から居間にかけて明るく広々とした家庭的な雰囲気づくりをしている。管理者と職員が理念に沿って日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかに過ごしている様子から伺うことができる。地域から情報を得て、行事に参加して交流するように努めている。幼稚園との交流やボランティアの訪問もあり、利用者は楽しみにしている。買い物や外出などの計画を多く立て、利用者が事業所に閉じこもらないよう支援している。食事は調理担当の職員が調理しており、新鮮な野菜を使いバランスが取れた食事は利用者の楽しみの一つとなっている。医療面では、協力医の往診や看護師が訪問をして利用者の健康管理をしており、毎日下肢の運動も行い機能の維持にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームころ今出

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

堀田 秀彰

評価完了日

平成 25 年 12 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「信頼」「和」「安心」の基本理念を実践するための行動目標を定め、事業所内の見やすい場所に掲示し、毎朝、勤務職員が唱和することで理念の共有に努めている。また、事業所で職員の倫理規定も作成しており、周知徹底を図っている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した「信頼・和・安心」という理念をよく見える場所に掲示し、毎朝唱和して職員間で共有している。ミーティング等では、理念についてあまり話し合うことはないものの、理念を実践できるよう行動目標を作成し、管理者と職員は利用者の日々の暮らしを支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くの神社の夏祭り、地方祭、文化祭に参加したり、近くの幼稚園と交流を深めている。亥の子に来て頂いて地域の子供達と触れ合っている。学生のボランティア体験等も受け入れている。プチ美化運動で事業所周辺の清掃活動をしている。年に1回ころ今出祭り開催し、地域の方々にも参加して頂いている。</p> <p>(外部評価) 町内会には加入できないため、公民館等から情報を得て地域の行事に参加して、地域住民と交流するように努めている。散歩時には近所の方と挨拶しており、事業所で新聞多く使うため、古新聞などを持ってきてくれる方もいる。近隣の幼稚園の運動会等の行事に参加したり、ボランティアや学生の体験学習の受け入れもしており、利用者は交流することを楽しみにしている。また、プチ美化運動として事業所周辺の清掃をしている。</p>	地域住民との交流は行事等の参加が中心となっている。利用者が地域とつながりながら暮らしていくことは大切で、地域住民と関わりを積極的に持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークの協力機関に登録し、自宅等で生活されている地域の認知症高齢者を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議は、資料を作成し、細かい事業報告をし、ご家族・外部の方々に事業所の現状を理解して頂いている。意見交換を行い、率直な意見や要望を頂き、事業所のサービスの質の向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、駐在所の警察官等の参加を得て開催している。会議では事業所の報告や意見交換が行われている。会議への参加者の固定化が見られる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に出席して頂き、事業所の取組みを理解して頂いている。市主催の事業所連絡会等には出席し、介護保険制度の理解に努めている。疑問等があれば相談にのって頂いたり、自己点検シートを活用し、きちんとした事業所の運営に努めている。事故報告書はきちんと提出し、指導等を頂いている。また、市社協のボランティア活動ガイドダンス等に参加し、日頃のケアに活かせるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、新しい情報等をもたらしているほか、事故報告書等を提出し指導してもらったり、疑問点や分からないことは気軽に相談したりしている。また、市主催の連絡会議等に参加し、サービスの向上に活かしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所で身体拘束に関するの基本理念・行動指針を定め事業所内に掲示している。マニュアルも作成し、全職員に周知徹底し、意識の向上にも努めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束マニュアルを作成し、月1回ミーティング等での話し合いや勉強会を開催し、管理者と職員は理解して身体拘束をしないケアを実践している。玄関は施錠せずセンサーで対応している。事業所は居間全体を見渡しやすく、外出しようとする利用者にも見守りをして対応できている。また、高齢者虐待への職員の知識を深めるため、勉強会の開催を予定している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等に参加し、知識を深めることで、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加し、制度の理解と活用方法などを理解し、必要である場合は活用できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居される場合は、事前に見学に来て頂き、事業所の雰囲気や設備等をパンフレット等を用いてしっかり説明している。納得された上で入居契約を締結している。改定の際は、説明会を開催して、本人やご家族の理解を頂いて、同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 事業所に意見箱を設置している。また、月に1回、行事等の案内をして、ご家族にも一緒に参加して頂き、親睦を深め、話しやすい環境作りに努めている。家族会では事前にアンケートをお送りし、事業所への意見等を求めている。また、苦情解決に関する規程を作成し、事業所のサービスの質の向上につなげている。 (外部評価) 家族の面会も多く、家族の訪問時や運営推進会議で意見や要望を聞いている。家族アンケートも実施し、意見を聞くようにしている。出された意見は管理者に報告し、ミーティング等で職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。また、「ころ今便り」を発行し、利用者の日常生活の様子がよく分かるよう家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを開いている。色々な意見を出し合い、職員全員で話し合っている。管理者以外にリーダーを配置し職員の意見を聞きやすいように努めている。ミーティングで出た意見は、運営者が参加する幹部会で話し合っている。また、日頃の些細な意見や要望は迅速に対応している。 (外部評価) 日頃から管理者は職員が意見や要望を言いやすい環境づくりに努めている。年2回、管理者との面談があり、職員は意見を伝えることができ、出された意見はサービスの向上につなげている。職員は事業所負担で希望する研修に参加することができ、資格取得を支援するなど資質の向上にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務希望や夜勤の回数等を確認し、職員一人一人配慮して、働きやすい環境づくりに努めている。年2回の賞与は日頃の勤務態度を評価することで賞与に反映させている。資格手当等もありステップアップを目指している職員も多い。また年2回の健康診断やインフルエンザ予防接種を実施し、職員の健康管理にも努めている。禁煙ぞなもし協力機関に登録し、職員の禁煙にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修に参加して、知識や技術の習得に努めている。外部研修に参加した職員は、研修で学んだことをミーティングの時に他職員に分かりやすく説明している。また、2か月に1回、講師を招いて法人全体で勉強会を開催している。また、各職員が1年の目標を立て、達成できるように努めている。目標の達成状況やその他いろいろなことを定期的に管理者と面談して話し合っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターが主催する事業所連絡会に参加し、情報交換を行っている。また、他事業所の勉強会に参加させて頂いたりしてサービスの質の向上に努めている。他事業所で開催されている研修に参加して、困難な事例等を相談している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居された時は、本人は混乱されていることが多いので落ち着いて生活できるように、使い慣れた家具等で安心できる居室づくりに努めている。事前にご家族等から得た情報を本人との会話にきっかけにし、話しやすい環境を作っている。その会話の中で本人の不安や要望を把握できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前には見学に来て頂いているが、その時に本人の状態や今までのご家族の本人への介護の状況等をお伺いして、不安な事や要望を聞いて、できる限りのことは対応していけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族や居宅介護支援事業所等から得た情報をきちんと整理し、ある程度の予測を立てて、入居された時にきちんとした対応がとれるよう努めている。また、入居されることで本人の活動範囲が狭くならないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者には役割も持って生活して頂いている。主役は入居者、職員は引き立て役として日々関わっている。干し柿作り等昔ながらのことに關しては、入居者より助言を頂きながら一緒に作業を行ったりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 参加が可能なご家族には一緒に行事に参加して頂いて本人と楽しい時間を過ごされている。家族会の餅つきでは、入居者の皆様と協力して餅を丸めて頂いたりしている。また、定期的に受診に付き添って頂けるご家族や外出に連れて行ってくださるご家族もいる。本人のことで気になることがある場合は、ご家族に相談にのって頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前仲が良かった知人が時々面会に来て頂いている。以前よく通っていたスーパー等買い物に出掛けたりしている。毎月ころ便りを発行し、本人の様子を伝え、大切な人との関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) よく行くパン屋の店員と顔馴染みとなっている。利用者の希望に応じて、自宅や生まれた場所に行けるよう個別の支援をしている。友人の訪問がある利用者もあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、デイサービスセンターこのみ余戸にも出かけて交流をしており、利用者同士の新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者のリビングの席はいつも同じなので、各テーブルで馴染みの関係ができ、仲が良い入居者ができている。入居者同士で握手をしたり、手をあげて挨拶をしている。分からないことやできないことはお互い教え合ったり助け合ったり、家事等に励まれている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用契約終了後も気軽に相談して頂けるようお伝えしている。本人に関する記録はきちんと保存しており、要望があれば、いつでも情報提供ができるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランを作成する時は本人とご家族に意向を確認している。日頃の会話や様子等から本人の情報をたくさん収集し、その人らしい生活が送れるように色々な場面での判断材料にしている。また、認知症ケアマニュアルを作成し、職員の認知症への理解を深め、その人らしさを支援できるよう努めている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員を決めて、日々の会話や様子を見ながら、思いや意向を把握するようにしている。職員と1対1となる入浴時にも、利用者の思いを聞き把握するよう努めている。新たに知り得た情報は申し送りや伝えたり、連絡ノートに記録したり、ミーティング等で話し合いをするなど、職員全員で共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居される時には、居宅介護支援事業所等から情報を頂いて本人の状況の把握に努めている。また、本人やご家族からこれまでの生活歴等をお伺いして、今までの生活スタイルや趣味等がなるべく継続できるように努めている。また、気になったことは面会の時にご家族に話を伺っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントは本人の状況が変わった場合や定期的に見直しを行っている。カンファレンスでも本人の心身の状態や気付いたこと、変わってきたこと等について職員で話し合ったりして情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成時には、本人・ご家族に必ずご意向を確認している。ケアカンファレンスも開いて、本人の心身の状態を話し合っ、より本人にあったケアプランが作成できるように努めている。週に1回ケアプラン実施確認表でサービス提供状況をチェックし、モニタリングも月に1回実施し、些細な状態の変化を見落とさないように努めている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。状態の変化に応じて、その都度、職員等で話し合いを行い見直しをしている。週1回介護計画の実践記録を確認し、月1回モニタリングをして評価をしている。また、3か月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 朝夕の申し送りで本人の様子を伝えたり、一日の様子に色々な情報を記録している。入居者のことでの気づきのノートを活用し、情報を共有している。ヒヤリハットや事故報告の意識を高め、月に1回職員で事例検討も行き、再発防止やより良いケアが提供できるように努めている。事例検討には介護支援専門員も必ず参加しており、ケアプランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調が悪い時等は、本人の様子に合わせて、柔軟な対応をしている。また、法人内のデイサービスの施設を活用し、入居者に普段とは違ったレクリエーション等を提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 駐在所の警察官に年に1回、事業所の入居状況等を報告し、運営推進会議にも参加して頂いて、相談にのって頂きやすい体制を整えている。敬老マッサージの補助券を利用して近くの鍼灸治療院にマッサージを受けに行っている。近くの散髪屋に来て頂いて髪を切って頂いたり、移動販売のパン屋に来て頂いたり、先生に来て頂いて音楽療法も行っている。ボランティア受付マニュアルを作成し、定期的に一芸ボランティアの方々に来て頂いて歌や踊り等を披露して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 基本的には協力医療機関の往診で対応している。専門医の 受診が必要な場合は、ご家族にお願いしているが、難しい 場合は職員が付き添って受診している。緊急の場合の受診 等もご家族と連絡を取りながら職員が柔軟に対応してい る。本人の様子がいつもと違った場合は、主治医に電話で 連絡し、指示を仰いだり、連携に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族と話し合い、2つの協力医のいずれかをかか りつけ医としている。協力医の往診と週1回訪問看護があ り、利用者の健康管理をしている。協力医の受診は職員が 同行することが多い。また、専門医は家族の協力を得て受 診することができる。緊急時は、救急指定病院に救急車で 搬送している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 他事業所の訪問看護ステーションと医療連携の契約を結ん でいる。週に1回体調管理に来て頂いているが、困っている ことがあったら、相談し、助言等頂いている。入居者ごと に訪問看護時の記録を残し、情報の共有に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には本人の介護サマリーや主治医に紹介状を書いて 頂いて医療機関に情報を提供している。入院中は定期的に 面会に行き本人の状態の確認を行い、ご家族や医療機関と の情報交換に努め、退院後事業所での生活が不安なく送れ るように努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居される時に、終末期について話をするが、ぼんやりと した話が多いので、本人の状態が変わった場合等、その都 度、ご家族に確認するよう努めている。看取りに関しての 研修には積極的に参加して知識を深めている。</p> <p>(外部評価) 事業所として看取りの指針を作成しているが、具体的な体 制はまだ整えられていない。利用者の状況に応じて、その 都度利用者や家族と話し合いを行いながら支援していく予 定である。また看取りの経験はないが、現時点で看取りを 希望している家族もいる。</p>	<p>利用者の重度化や終末期には、利用者や家族と話し合いを 行うほか、医師や看護師、職員等のチームでの協力体制を 整備して支援することが望まれる。また、職員の不安解消 や知識を高めるため、継続して勉強会を行うことを期待し たい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方を招いて、年に1回、応急手当講習会を開催している。AEDの使い方や心臓マッサージ、人工呼吸など指導して頂いている。緊急時対応マニュアルを作成しており、全職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中の火災を想定しての避難訓練、夜間の火災を想定しての避難訓練は消防署の方や民生委員にも来て頂き指導して頂いている。地震と津波の発生を想定した防災訓練も年1回行っている。消防計画書を作成して、全職員に周知徹底している。また、火災等が起きないように日々点検等を行っている。災害時の備蓄品もある程度準備している。 (外部評価) 消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しているほか、定期的に地震と津波を想定した防災訓練も実施している。緊急時に備え、応急処置などの救命講習も実施している。また、災害に備え備蓄品等を用意している。	利用者の居室は2階にあるため、特に夜間は職員の避難誘導だけでは限界があり、日頃から地域住民との協力体制が得られるよう話し合い、一緒に訓練を行うことが望まれる。また、地域の自主防災組織にも働きかけ、相互の協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 事業所で、プライバシー保護マニュアルを作成し、全職員に周知徹底して、排泄介助や入浴介助等のケアにあたっている。また、個人情報保護に関する基本方針を作成し、個人情報の取り扱いにも併せて十分配慮している。 (外部評価) プライバシー保護マニュアルを作成しており、利用者への声かけや言葉づかいにも気をつけながら、自然な対応をするよう心がけている。トイレや入浴時には、利用者の羞恥心に配慮した対応をしている。トイレ誘導時には大きな声は出さないことや、音楽をかける時には音量に配慮している。また、個人情報の取り扱いも注意し、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声掛けを行い、本人の気持ちを確認している。会話する機会を多く作り、さりげなく本人の思いを確認している。また、本人の状態によっては、筆談やスケール等のコミュニケーション手段を活用し希望にそえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度の一日の流れはあるが、その日の体調等を考慮して本人のペースに合わせて過ごせるよう努めている。日中はしっかり体を動かして頂き、夜間はぐっすり眠れるよう、生活のリズムを整えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に1回近くの散髪屋に来て頂いて髪を切って頂いている。整髪、髭剃り、顔そり、爪切りは声掛けにより行っている。女性の方はマニキュアを塗ったりしている。外出する時はいつもよりお洒落をして出掛けられている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な料理の下ごしらえや下膳は協力して頂いてる。旬の食材を使用して目で楽しんで頂いたり、お鍋を囲んだりして季節を感じて頂いたりしている。七草や節分等は行事にあった食事を提供している。食事は介助が必要な方でもおやつは自力摂取を勧めて自分で食べる喜びを感じて頂けるよう努めている。自助具等も活用している。おやつ作りで自分で作る楽しみを感じて頂いている。職員も一緒に食事をし温かい雰囲気作りに努めている。外で食べたり、外食なども大切にしている。 (外部評価) 調理担当の職員が、食材を見て献立を立て、畑で採れた新鮮な野菜を取り入れながらバランスよく調理している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。食事は利用者の楽しみの一つとなっており、ほとんどの利用者は完食されている。また、下ごしらえやおやつ作りなど、利用者ができることを職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は毎食摂取量を記録している。水分量は1日の摂取量を記録している。記録を参考にしたり、本人の様子を見て食事を勧めている。しっかりアセスメントを行い、本人にあった食事形態で提供している。体調等を崩している場合は、メニューや食事形態を変更したり、主治医に相談し栄養補助食品などを提供している。本人の嗜好も大切にしている。食事介助マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。また、月に1回体重測定を行い参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。本人の状況によって声掛けをさせて頂いて介助している。夜間は義歯を預かり、義歯洗浄剤で洗浄している。感染症対応マニュアルを作成し、日頃よりうがい・手洗いを励行している。また、口腔機能が維持できるように毎日昼食前には口腔体操を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 日中は布パンツで過ごすことができるよう努めている。日中はトイレで排泄を促し、排泄チェック表を活用し、一人一人に合った排泄パターンの把握に努めている。手すりを持ってつかまり立ちができるように本人に合わせた下肢の運動を毎日行っている。また、声掛けをする時や介助する時にはプライバシーには十分配慮するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせて支援をしている。夜間はオムツを使用している利用者にも、昼間はリハビリパンツを使用してトイレ誘導を心がけて支援している。夜間は職員が2階で待機し、利用者の状態に応じて睡眠を優先したり、トイレ誘導したりするなどの対応をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎食時、おやつ時、入浴後等にはしっかり水分を摂取して頂いている。果物やヨーグルトを使用して手作りのフレッシュジュース等も提供している。食事はバランスを考えながら、食物繊維が多く摂取できるメニューを考えている。朝食後にはラジオ体操や個別の運動もあり体を動かす機会を設けている。必ずトイレに座って頂いている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴を楽しめる回数が入居者同士で同じ位になるように努めている。職員と1対1の介助なので、ゆっくり入浴できる。入浴剤等も使用し気分転換もできるよう努めている。冬にはゆず湯なども行っている。入浴前にはバイタル測定をしているが、体調が悪い時等は、本人の様子を見て入浴するのを検討している。</p> <p>(外部評価) 利用者の入浴状況を把握して、3日に1回、午後から入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけする職員を交代したり、時間をずらしたりして無理強ひせず入浴できるよう工夫をしている。また、ゆず湯や入浴剤を入れ、利用者がゆっくり気持ちの良い入浴ができるよう心がけている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) リビングには和室もあり、ちょっと横になって休まれる方や体調が悪い時等は横になって休まれている。居室は本人の希望や今までの習慣を大切にして、ベットを使用したり、布団で休まれたりしている。日中はソファでテレビを見たり新聞を見たり、マッサージチェアに座ったりして過ごされている。ちょうどよい季節ではウッドデッキで日光浴を楽しまれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の説明書は個人ファイルに保存している。説明書を見て、入居者の服用している薬の把握に努めている。薬の変更があった場合は、申し送りや連絡帳を通して情報を共有し、本人の状態の変化等の観察をしっかりと行って、主治医に報告している。薬は職員が管理して、間違いのない服用に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人ができる家事等はして頂き、それぞれ役割を持って生活されている。また、料理が得意な方はおやつ作りを頑張ってもらったり、音楽が好きな方は音楽療法に参加してもらったり、移動販売のパン屋さんで好きなパンを購入したり、鍼灸治療院でマッサージを受けたり、本人の楽しみも大切にしている。工作、塗り絵、編み物、ゲーム等のレクリエーションも提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人に声掛けをして散歩や買い物に出掛けている。月に3～4回程度本人が楽しめそうな外出行事に出掛けている。また、週に2～3回、天気がいいと事業所の近くを散歩している。また、時々、本人とご家族だけで外出されることもある。屋外活動チェック表を活用して本人の外出状況を把握している。 (外部評価) 日頃から近隣や川沿いを散歩したり、利用者の希望に応じてスーパー等によく買い物に出かけたりしている。毎月外出計画を立て、週1回は利用者が外出できるよう心がけている。季節に応じて、花見や菊花展、いちご狩り等にも外出できるよう支援しており、利用者の楽しみとなっている。また、家族と一緒に外出される利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等の支払いは、一時的に事業所が立て替えて、後で請求している。本人がお金を持つ機会はないが、レジの支払いの時には、本人にお金を渡して、払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族が県外に住まわれている方等は、時々電話で話をされている。また、定期的に手紙を送って頂けるご家族もいる。母の日や父の日、誕生日等はプレゼントを送って頂いたり、電話連絡があったりする。暑中見舞い、年賀状等を送って近況をご家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 南側は全面窓になっており、明るく暖かな日差しが差し込んでいる。ウッドデッキもあり、プランターで季節の花を育てている。時間がある時は童謡等の音楽を流し、心地よく過ごせるように工夫している。浴室やトイレには手すりを設置し安全面には十分配慮している。共用空間は毎日掃除をしており清潔を保っている。冬は加湿器を入れ乾燥しないよう努めている。</p> <p>(外部評価) 居間は明るく、畳スペースも広く確保されている。壁には利用者の写真や季節の物が飾られ、落ち着いて過ごせるよう工夫している。居室は2階にあるため、利用者は居間で日中過ごすことが多く、畳スペースで横になったり、洗濯物をたたんだりしている。また、ステージ等を利用して、ボランティアがフォークソング等を披露している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 1人でソファでゆっくり過ごしたり、和室で休まれたりしている。天気の良い日は、仲の良い入居者同士でウッドデッキで外気浴を楽しみながら、会話を楽しんだり、おやつを頂いたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居される際には、使い慣れた馴染みのあるものを持って来て頂くように説明している。部屋には一緒に作った作品や誕生日にプレゼントした色紙などが飾ってある。出窓には観葉植物等もおいてあり、落ち着いた環境作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室は2階にあり、広くて明るい部屋となっている。利用者に合わせて、ベッドなどを移動してレイアウトを変更している。各居室には出窓もあり、収納場所も広く確保されており、部屋の中はすっきりした感じとなっている。壁には利用者の好みの物が飾られており、過ごしやすいう工夫している。また、畳を使用している利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 座って干せる物干し等少しでもできることが増えるように工夫している。カレンダーは分かりやすく工夫したり、時計は見えやすい位置に設置したりしている。居室の入り口には本人の写真入りのプレートで分かりやすくしている。全面バリアフリーで移動しやすくなっており、手すりも設置されている。</p>	